

Sustainable Report No.089

不要になった衣類の 行先と物流を問う

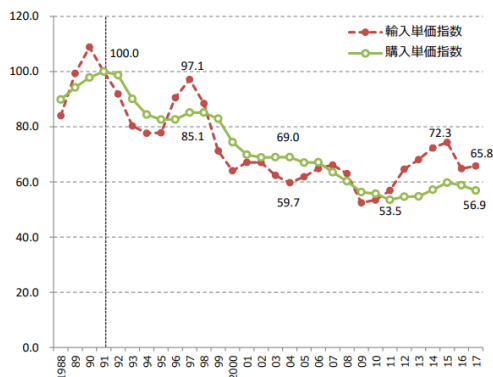


サステナブルレポートとは、サステナビリティを指標に社会課題や環境課題からテーマを選定し、それらの背景・ソリューション事例・将来への展望などを考察する独自の調査報告書です。
小川電機グループは、全従業員ひとりひとりが本レポートを作成・発信する取組みを行っています。

■ 課題の現状／経緯／影響

- 日本では、不要になった衣類や売れ残ってしまった衣類が**年間約50万t廃棄**されている。廃棄における主な処分方法は焼却である。
- **ファストファッションの台頭**により安価な衣類が増え、消費者は気軽に手に入り、気軽に廃棄するようになり、衣類のライフサイクルが短くなった。
- 生産過程でも生産コストを下げる為に**大量生産**をしなければならなくなり生産者側での余剰在庫の大量廃棄にも繋がっている。
- 世界のファッション業界全体で**生産・廃棄時のCO2排出は年間12億トン**におよび、国際航空業界と海運業界の合計よりも多い。

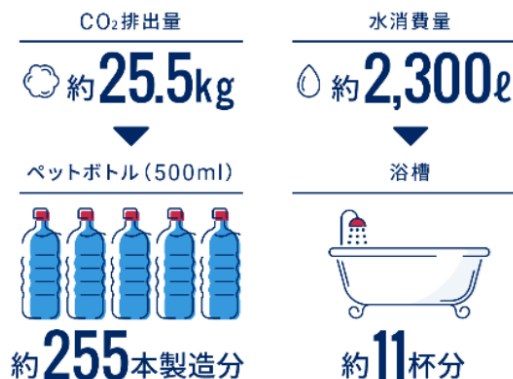
■ 衣料品購入単価・輸入単価の推移



出典：購入単価=総務省「家計調査」、輸入単価=財務省「貿易統計」よりそれぞれ算出
※1999年を「100」とする

出典：経済産業省

■ 環境負荷 — 服一着当たりの換算



出典：環境省

▶NEXT：服づくりにおける無駄の削減

■ 実行者／解決方法／残る課題

- 衣類メーカーの**株式会社ファーストリテイリング**は、長く着られる高品質の服を作ると共に、あらゆる無駄を無くし、環境型社会の実現と資源効率の最大化を目指している。
- 同社は企業として「つくる責任」を果たすため、消費者から商品を回収し、**服から服へのリサイクル**『Re.UNIQLO』や、難民へ寄贈を行っている。
- 消費者が不用品を回収場所に持参する場合、その手間によって持参を諦め、結局廃棄してしまう場合があるのではないか。消費者から**不要の衣類を回収する作業**には改善の余地がある。

■ 服から服の原材料としてのリサイクル



出典：株式会社ファーストリテイリング

■ 店頭回収を前提としている



お客様のご不要になったユニクロ・ジュー・プラスの服を各店舗に設置された**RE.UNIQLO**回収ボックスで回収。

出典：『Re.UNIQLO』公式サイト

▶NEXT：衣類回収の手間とコスト削減に挑む物流システムの改革

■ 弊害の原因／理想／企業施策

- 商品を安価に設定すると、**回収作業に関する物流システム**までコストを賄えない可能性が高まる。
- **手間と労力がかからない**または**消費者にメリット**があるリサイクル方法が理想である。
- オンライン発注の配送に際して**梱包を再利用**して消費者側に不用品の送付システムを提供できるのではないかと。消費者にとっても配送の梱包材の廃棄の手間が省けるため、利便性が高まると考えられる。

■ 高騰する物流業界



画像：写真AC

■ 使い捨てられてきた梱包材



画像：写真AC

本レポートをご覧いただき、ありがとうございました

■ 参照・引用資料

- 環境省, 「サステナブルファッションーこれからのファッションを持続可能に一」, 2021年6月23日
(https://ondankataisaku.env.go.jp/carbon_neutral/topics/20210621-topic-05.html)
- 経済産業省, 「繊維産業の現状と経済産業省の取組」, 令和2年1月17日
(https://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/mono/fiber/pdf/200129seni_genjyou_torikumi.pdf)
- 株式会社ファーストリテイリング, 「RE.UNIQLO」, 2023年03月01日参照
(https://www.uniqlo.com/jp/ja/contents/sustainability/planet/clothes_recycling/re-uniqlo/)

■ サステナブルレポートに関するお問い合わせ先



小川電機株式会社

〒545-0021 大阪府大阪市阿倍野区阪南町2丁目2番4号

tel:06-6621-0031(代)

- 本レポートに掲載された内容は作成日における情報に基づくものであり、予告なしに変更される場合があります。
- 本レポートに掲載された情報の正確性・信頼性・完全性・妥当性・適合性について、いかなる表明・保証をするものではなく、一切の責任又は義務を負わないものとします。
- 本レポートの配信に関して閲覧した方が本レポートを利用したこと又は本レポートに依拠したことによる直接・間接の損失や逸失利益及び損害を含むいかなる結果についても責任を負いません。
- 本レポートに関する知的著作権は株式会社小川電機に帰属し、許可なく複製、転写、引用等を行うことを禁じます。